

令和4年度

病虫害発生予察情報

第17号

9月月報

北海道病虫害防除所 令和4年(2022年)10月21日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

—高気圧に覆われて晴れた日が多く、かなりの多照—

9月は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、月間日照時間はかなり多かった。特に日本海側の月間日照時間の平年比は、1946年の統計開始以降、多い方から第3位だった。

北海道地方：月平均気温は高く、月降水量は少なく、月間日照時間はかなり多かった。

日本海側：月平均気温は高く、月降水量は平年並、月間日照時間はかなり多かった。

オホーツク海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間はかなり多かった。

太平洋側：月平均気温は高く、月降水量は少なく、月間日照時間は多かった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かった。オホーツク海側の日照時間の平年比は、1961年の統計開始以降、9月上旬として多い方から第1位の記録となった。また降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、9月上旬として少ない方から、北海道地方と太平洋側では第1位、日本海側では第2位の記録となった。なお、6日から7日にかけては台風第11号から変わった低気圧の影響で、日本海側や太平洋側西部では大荒れの天気となった所があった。

中旬：前半は、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。後半は、前線や湿った空気の影響により、曇りや雨の日が多かった。

下旬：前線や湿った空気の影響により雨が降った日もあったが、日本海側とオホーツク海側を中心に、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

気候表(気温は平年差(°C)、降水量・日照時間は比(%))を示す

	気温偏差°C	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+1.1	高	72	少	120	か多
日本海側10地点平均	+1.1	高	76	並	124	か多
オホーツク海側4地点平均	+1.4	か高	71	並	126	か多
太平洋側8地点平均	+1.1	高	68	少	112	多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。

なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入るとは「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病虫害発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稻

1. いもち病（穂いもち・節いもち） 発生量 穂いもち：やや多、節いもち：並

予察田の「きらら397」における穂いもちの発生量は北斗市及び比布町では平年より多く、岩見沢市では平年より少なかった。節いもちの発生量は、比布町では平年よりやや多く、北斗市では平年並、岩見沢市では平年より少なかった。

予察田における水稻の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	9.4	40.0	-	-	10
	ななつぼし	26.0	46.2	-	-	10
比布町	きらら397	80.7	61.6	-	64.6	10
	ななつぼし	81.5	53.1	-	68.7	6
北斗市	きらら397	76.1	41.9	-	52.4	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-: 成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稻の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0.2	12.8	-	-	10
	ななつぼし	1.3	24.1	-	-	10
比布町	きらら397	13.1	7.4	-	18.3	10
	ななつぼし	13.0	6.6	-	15.5	6
北斗市	きらら397	9.9	11.2	-	22.3	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-: 成熟期を迎えたため調査終了

2. 紋枯病 発生量 やや少

予察田における発生量は、岩見沢市及び北斗市のいずれも平年よりやや少なかった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	10.8	18.4	11.5	23.8	10
北斗市	きらら397	18.2	26.9	-	17.9	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-: 成熟期を迎えたため調査終了

3. ニカメイガ 発生量 やや多

予察田における被害茎率は、長沼町で平年よりやや高かった。

予察田におけるニカメイガによる被害茎率(%)

長沼町	
本年	平年
8.6	6.0

注) 平年数: 10年

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 並

< 7月15日付け注意報第4号 >

< 8月1日付け注意報第5号 >

予察田による成虫誘殺数は、北斗市で平年よりやや多く、長沼町で平年並、比布町で平年より少なかった。

予察田における成虫のすくい取り虫数は、比布町で平年よりやや多く、北斗市で平年並、長沼町では平年よりやや少なかった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察田による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	31	33.5	1	24.5	65	25.7	2.5	3.8	0	3.3	0	3.3
2半旬	18	64.1	3	41.9	2	26.2	0	1.0	0	1.9	2.5	3.8
3半旬	31	23.6	3	10.9	1	1.9	0	0.8	0	2.8	5.0	3.5
4半旬	18	5.4	9	26.4	11	2.3	0	0.8	15.0	0.8	5.0	1.1
5半旬	7	1.1	0	1.2	0	0.2	0	0.2	0	1.9	-	0.5
6半旬	2	4.2	0	0	1	0.1	-	0.2	0	-	-	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) -: 収穫期を迎えたため調査終了

B. 豆類

1. ベと病（大豆） 発生量 やや多

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年よりやや多かった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	27.0	21.1	-	17.6	10

注1)-:調査不能

C. てんさい

1. 褐斑病 発生量 多 <6月29日付け注意報第3号>

予察ほにおける発生量は、長沼町及び芽室町の「あまいぶき」では平年より多く、訓子府町の「ライエン」では平年よりやや多かった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(“弱”)	85.2	72.3	94.8	84.5	100	91.7	10
	ライエン(“やや強”)	75.2	53.7	90.8	66.1	100	76.9	7
芽室町	あまいぶき(“弱”)	78.4	69.8	92.0	78.0	97.6	87.6	8
	ライエン(“やや強”)	60.8	50.0	79.6	57.1	96.0	70.0	7
	スタウト(“強”)	66.4	51.3	79.6	60.7	90.4	73.7	8
訓子府町	ライエン(“やや強”)	61.6	54.5	73.6	65.4	85.2	75.8	10

2. ヨトウガ（第2回） 発生量 やや多

予察ほにおけるヨトウガ第2回幼虫による食害程度は、長沼町で平年より高く、訓子府町で平年よりやや高く、芽室町で平年並であった。

一般ほにおける9月3半旬の巡回調査によると、被害株率50%以上となった地点はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	78	56.7	41.5	43.2	30	39.9
2半旬	98	60.8	46.5	46.8	47	43.8
3半旬	100	66.4	45.5	50.0	53	50.7
4半旬	100	69.0	52	54.2	66	56.8
5半旬	100	70.4	53	57.5	73	61.3
6半旬	100	73.1	55	59.2	75	65.0
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター		地点数	9月3半旬		普及センター		地点数	9月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	南東部	1	2.0	0	網走	本所	9	11.9	2.3
石狩	本所	2	20.0	4.3		清里	6	12.3	6.4
後志	本所	3	15.3	3.0		網走	2	9.0	12.0
胆振	本所	4	7.0	4.0		美幌	5	10.6	0.6
	東胆振	3	10.7	8.7	遠軽	3	14.0	26.3	
上川	富良野	3	10.0	2.7	十勝	本所	7	3.4	7.3
	大雪	3	1.3	0		東部	5	4.0	1.4
	士別	1	11.0	0		東北部	4	23.0	22.5
	名寄	2	6.0	7.0		北部	3	1.3	0
西部						3	4.0	5.3	
						南部	3	22.8	2.3

D. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおける軟腐病の発生は平年よりやや少なかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	夏播き	0.5	1.6	1.0	3.2	1.0	3.8	10

2. モンシロチョウ 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年よりやや少なかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	15.0	9	11.1
2半旬	1	8.8	3	11.8
3半旬	2	14.7	3	15.4
4半旬	13	22.4	4	19.7
5半旬	22	23.0	6	14.6
6半旬	9	26.7	7	17.8
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

3. コナガ

発生量 やや多

＜5月9日付け注意報第1号＞

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、北斗市で平年よりやや多く、芽室町及び訓子府町で平年並、長沼町及び比布町では平年よりやや少なかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年より多く、長沼町で平年よりやや多かった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2	20.3	0	3.4	6	5.1	1	0.9	0	2.0
2半旬	9	22.5	2	0.9	12	4.2	0	0.1	0	1.1
3半旬	9	12.3	2	0.7	13	5.3	0	0.1	2	0.6
4半旬	5	9.2	1	1.9	8	5.5	0	0.2	0	0.9
5半旬	6	10.2	0	2.4	5	3.8	0	0.5	0	0.5
6半旬	6	9.1	1	4.6	2	3.1	0	0.2	0	0.7
平年数	10		7		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2	8.8	2	10.9
2半旬	1	8.5	1	5.1
3半旬	17	8.9	7	1.9
4半旬	7	7.9	33	3.9
5半旬	21	9.8	21	3.8
6半旬	26	8.3	20	3.3
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

E. りんご

1. 黒星病

発生量 並

予察園における発生量は、長沼町（無防除）の「昂林」及び「ふじ」のいずれの品種とも平年より多かった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。

巡回調査の報告によると、一般園では胆振及び渡島地方で発生が認められている。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	100	60.5	99.9	39.7	10
	ふじ	100	82.9	99.1	56.9	5
余市町(慣行防除)	昂林	0	-	-	-	-

注1) 長沼町は9月6半旬、余市町は9月第4週のデータ

注2) - : 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	1.0	0
渡島	本所	1	0.7	0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生量は平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

一般園における巡回調査の報告によると、胆振、渡島及び留萌地方渡島地方で発生が認められ、感受性品種で発生が多く認められている。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	8.3	5.8	0.12	0.15	10
	王林(徒長枝)	4.4	4.8	0.11	0.11	10
余市町(慣行防除)	昂林	0	-	-	-	-

注1)長沼町は9月6半旬、余市町(慣行防除)は9月4週目の調査結果

注2)－は調査対象外または平年値なしを示す

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	2.0	0
渡島	本所	1	19.5	3.0
留萌	南留萌	1	16.5	0

3. モモシクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町A及びB（慣行防除）で平年並、長沼町（無防除）で平年よりやや少なかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市、札幌市及び旭川市で平年よりやや多く、壮瞥町で平年並、七飯町では平年よりやや少なかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	25	36.3	0	14.8	15.8	22.1
2半旬	18	31.7	10	5.8	20	11.6
3半旬	7	6.4	7.7	2.2	13.4	4.5
4半旬	1	0.5	4.3	1.2	3.6	2.8
5半旬	0	0.3	0	1.3	0	0.4
6半旬	0	0	0	0.7	0	0.1
平年数	10		10		10	

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	7.5	1.8	11.5	8.2	5.8	9.6	2.5	16.9	9.2	10.2
2半旬	3	1.5	5.1	3.5	6.4	6.0	5	8.2	12	4.4
3半旬	0	0.7	0	0.3	3.6	1.3	3.3	3.4	3	0.4
4半旬	4.3	0.1	0	0	0	0.6	0.7	1.6	1	0.2
5半旬	1.7	0	0	0	0	0.2	0.7	1.0	1	0
6半旬	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0.3	0	0
平年数	10		10		10		10		10	

4. ハダニ類 発生量 リンゴハダニ：少、ナミハダニ：少

予察園におけるリンゴハダニは、長沼町（無防除）、余市町A及びB（慣行防除）いずれの地点においても発生が認められなかった。ナミハダニは、余市町Bで平年よりやや少なく、長沼町及び余市町Aでは発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	5.4	-	0.5	-	0	0	3.4	-	1.0	-	0.3
2半旬	0	0.3	0	0	0	0.1	0	0.5	0	1.0	0	13.9
3半旬	0	1.5	0	0.1	0	0.3	0	0.3	0	0.3	0	2.9
4半旬	0	0	0	0	0	0.3	0	0.1	0	0.1	7	0.6
5半旬	0	0.1	-	0.2	-	0	0	0.4	-	1.4	-	0.4
6半旬	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。

5. キンモンホソガ 発生量 少

予察園における被害葉率は、長沼町（無防除）で平年並、余市町A及びB（慣行防除）では被害が認められなかった。予察園におけるフェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町A及びBでは平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、旭川市で平年並、増毛町で平年よりやや少なく、岩見沢市、札幌市、石狩市、壮瞥町及び七飯町では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	被害葉率(%)						フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	9.4	12.9	0	0.5	0	0.0	33.0	45.4	13.0	96.0	63.3	72.1
2半旬	9.4	16.1	-	0.5	-	0.3	50.0	55.9	29.4	107.3	16.3	83.3
3半旬	11.4	21.5	0	0.6	0	0.3	14.0	40.1	26.8	99.6	22.6	82.5
4半旬	16.2	22.5	0	1.1	0	0.7	2.0	10.6	22.9	64.1	32.1	58.5
5半旬	26.2	30.3	-	0	-	0.5	2.0	4.0	0	39.5	0	36.6
6半旬	39.4	32.7	0	0.6	0	0.2	0	1.2	0	15.4	0	18.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0.6	3.2	0.9	3.7	7	45.3	0	58	2.5	3.3	1.7	0.7	133.4	243
2半旬	0.3	3.6	0.4	1.9	-	107.3	0	102	0	4.4	0	1.8	44.3	308
3半旬	0	4.8	0	1.8	4	86.7	0	88	0.6	9.9	0	0.6	67.2	292
4半旬	0	1.7	0	0.6	3	101.1	0	64	1.4	8.6	0	0.3	128.0	246
5半旬	0	0.6	0	0.3	0	43.6	0.7	28	0	6.0	0	0.1	135.8	120
6半旬	0	0.1	0	0.2	0	16.3	0.3	9	0	4.9	0	0	82	51
平年数	10		10		8		10		10		10		10	

注)-は欠測

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの（総合）振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)をご覧ください。